

月例英国経済概況 (2004年5月)

現状: 家計の消費が堅調な推移を続け、企業(製造業)の景況も回復へ。
 1-3月期の実質GDPの伸び率は、前期からやや鈍化して前期比0.6%(同年率2.6%)(図)。
 サービス業は堅調ながら、製造業の拡大ペースが鈍化(前期比)。
 消費、投資など内需が好調を維持する一方、外需が成長率を押し下げ()。
 貿易赤字が拡大傾向()。ただし、2月は対米輸出増を主因として、赤字縮小。
 企業のマインドは改善基調。ただし、生産は軟化傾向()。外需不振の影響。
 消費は好調を継続()。良好な雇用・所得環境()や好調な住宅市場()が背景に。
 住宅価格の伸びが再び上昇傾向へ。個人向け貸し出しの増勢も衰えず()。
 今後: 企業部門の回復と世界経済改善に伴う輸出増加などから、景気拡大が継続の公算。
 良好な雇用環境が家計の消費を下支えするなか、企業の投資が回復へ。
 世界経済改善に伴う輸出増加が、企業部門の回復傾向を後押し。景気は緩やかな拡大を持続
 との見方がコンセンサス()。ただし、ポンド高の影響は懸念材料。
 また、住宅バブル再燃の懸念と家計債務の増大が今後の景気の注目点に。

